

1 単元名 問いをもつことで読み深める「海のいのち」

2 単元について

| | |
|------|--|
| 単元目標 | ○叙述を基にして考えた問いについて、自分の考えを書くことにより、登場人物の心情を読み取る。 ○問いに対する考えを交流し合うことにより、物語の読みを深める。 |
|------|--|

国語の授業で物語を読む意義とは何かを考えると、「文学の楽しさを知ること、登場人物の心情を考えることで、日常での自分のあり方を振り返ること」等、様々考えられる。一人で読む楽しさもあるが、同じ物語でも読み手が違えば、受け取る印象や読み取り方も大きく変わる。この違いに触れることを大切にしたいと思い、授業を構成している。

子どもたちは、高学年になってからの国語の授業でも多くの文章を読んできた。その中で、『注文の多い料理店』『わらぐつの中の神様』『風切るつばさ』を学習した時に、自分たちで問題を作って話し合いによって読み深めていく活動を経験した。問題とは、テストで出されるような一問一答のものではなく、物語全体を通した主題や登場人物の心情等に迫れる問題である。問題を作る活動を積み重ねてきたことで、物語を読み深める問題を追求するようになってきた。読みを深めるためには、まず、読み手自身の問題意識が必要であると考えている。自分たちで考えた問題を深く追求していくことは、子どもたちにとっても意欲をもつことにつながることを感じている。

この学習は、「本文を読んで問いを作る」「各ファミリー(生活班)で決めた問いについて自分の考えをもつ」「自分の考えを基に、クラスで話し合う」という流れで進めていく。本単元では、選ばれた問題全てについて話し合った後に、より物語を読み深める問題はどれなのかを選ぶ「問題を精選する」活動もしていきたいと考えている。単元の終末では、これまでの学習を可視化することもねらいとして、新聞を作成する。

3 学習指導計画(全12時間/8時間目)

- (1) 全文を読み、初発の感想(疑問を必ず入れる)を書く。(1時間)
- (2) 初発の感想を共有する。(1時間)
- (3) 物語冒頭の場面から、太一の父親のことを読み取る。(1時間)
- (4) 太一が与吉じいさに弟子入りしてからの場面で、問題を作り、検討する。(1時間)
- (5) 各ファミリーから出された問題について話し合う。(本時4/5時間)
- (6) 登場人物同士の関わりや心情を中心内容として、新聞を作る。(2時間)
- (7) 新聞を読み合い、感想を伝え合う。(1時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

・問題について考えを交流することで、登場人物の心情について自分の読みをもち、深める。

(2) 予想される本時の展開

| 主な学習活動と子どもの姿 | 留意点 |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 本時で話し合う問題を知り、それに対する自分の考えをノートに書く。 | ○ 問題の出題者を事前に決めておく。 |
| 2 考えを交流する。 | ○ 司会が話し合いを進める。記録は、黒板書記が担当する。 |
| 3 交流した後の、問題に対する考えをノートに書く。 | ○ 話し合いの前と後で、自分の考えがどのように変わったかを明確にする。 |

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

・問題を作ることは物語を読み深めていく上で有効だったか